

第一話 題名

最近、中村家に首輪のない野良猫が来るようになった。茶色と白の模様をもった野良猫。まあ、もちろん、リビングの軒下あたりにやってきては、えさをやっていたから、なついていたんだろ。しかし、野良猫は野良猫。絶対に近づかない。近づかないけど、朝と晩になると必ず中村家に来て、えさをねだる。ただ、そのとき彼は、何となく野良猫の境界線を越え、家猫の敷居をまたぐようになっているようにも感じた。

まだ、そのときには彼に名前を与えていなかった。はじめは、中村家の人々は、野良猫！と呼んでいたが、あることをきっかけに名前を与えることになった。



それは、ある朝のこと、中村家の人々が朝食を取っていると、えさをねだりに彼がやってきたのだ。しかし、仕事にでかけるべく急いでいた中村家の人々は、えさをあげなかった。すると、彼は自分の存在をアピールし始めた。まず第一弾は、猫の小技で有名な「猫パンチ」を窓にかますのだ。コツコツとかわいい音をするが、それでも中村家の人々は無視して食事をガツガツと食べている。すると彼は第二弾となる思わぬ行動に打って出てきた。中村家のリビングの窓は、下半分が磨りガラスで上半分が透明なガラスである。そして、その窓のすぐ外には、ちょうど磨りガラスと透明ガラスの境目までくらいの高さがある岩があつて、そのすぐそばにヒイラギが立っている。彼は、その岩を登り、さらにヒイラギにも登った。そして、彼はちょうどヒイラギの枝が二股に分かれているところにすっぽり収まるように横たわり、両方の前足の上にあごを載せるようにして、枝をゆするのだ。ヒイラギがゆつさゆつさとゆれる。朝食を食べていた中村家の人は目を疑った。もう、まるで、だだをこねている子どものように、ゆつさゆつさと枝をゆする彼。中村家の人々は、思わず吹き出してしまい、しようがないとばかりに母親が魚を与えた。その行動は、中村家の人々がえさをやらないときには、必ずしていた。

「何か、飼いだないけど、飼いだね。名前は・野良猫だから、ノラちゃんだな。」

誰が言ったというわけではないが、そうなってしまった。野良猫のノラ。決して家には上がらないし、あげない。野良猫は野良猫なのだ。でも、ノラなのだ。彼のベッドは、庭のプランターである。

上の文章を読んで問いに答えましょう。

一 「ノラ」の姿や様子を一段落の中から読み取り、次の□に合う言葉を書きましよう。

□の
ない野良猫

□の
模様をもった野良猫

・絶対に□が、朝と晩になると必ずやってきて□。

二 □だだをこねている子どもとはノラのような姿を言っていますか。当てはまるものに丸を付けましよう。

() 「猫パンチ」をかます姿

() 枝をゆする姿

() 魚を食べる姿

三 飼いだないけど、飼いだね。と考えたのはなぜですか。次の条件に合わせ書きましよう。

【条件】飼いだないといえる様子と飼いだといえる様子を、ノラの行動から整理して書くこと

四 □題名□に当てはまると思つものに丸を付けましよう。

() 野良猫ノラ登場

() ノラの必殺技「猫パンチ」

() 中村家の人々

最近、中村家に首輪のない野良猫が来るようになった。茶色と白の模様をもった野良猫、まあ、もちろん、リビングの軒下あたりをやつてきては、えさをやっていたから、なついていたんだろ。しかし、野良猫は野良猫、絶対に近づかない。近づかないけど、朝と晩になると必ず中村家に来て、えさをねだる。き彼は、何となく野良猫の境界線を越え、家猫の敷居をまたぐとしてるようにも感じた。



まだ、そのときには彼に名前を与えていなかった。はじめは、中村家の人々は、野良猫！と呼んでいたが、あることをきっかけに名前を与えることになった。それは、ある朝のこと、中村家の人々が朝食を取っていると、えさをねだりに彼がやつてきたのだ。しかし、仕事にでかけるべく急いでいた中村家の人々は、えさをあげなかった。すると、彼は自分の存在をアピールし始めた。まず第一弾は、猫の小技で有名な「猫パンチ」を窓にかますのだ。コツコツとかわいい音をするが、それでも中村家の人々は無視して食事をガツガツと食べている。すると彼は第二弾となる思わぬ行動に打って出てきた。中村家のリビングの窓は、下半分が磨りガラスで上半分が透明なガラスである。そして、その窓のすぐ外には、ちょうど磨りガラスと透明ガラスの境目までくらいの高さがある岩があった。そのすぐそばにヒイラギが立っている。彼は、その岩を登り、ギにも登った。そして、彼はちょうどヒイラギの枝が二股に分かれているところにすっぽり収まるように横たわり、両方の前足の上にあごを載せるようにして、枝をゆするのだ。ヒイラギがゆつさゆつさとゆれる。朝食を食べていた中村家の人は目を疑った。もう、まるで「だだをこねている子ども」のようだった。ゆつゆつと枝をゆする彼。中村家の人々は、思わず吹き出してしまい、しょうがないとばかりに母親が魚を与えた。その行動は、中村家の人々がえさをやらないときには、必ずしていた。

「何か、飼いだかじゃないけど、飼いだね。名前は、野良猫だから、ノラちゃんだな。」

誰かが言ったというわけではないが、そうなってしまう。野良猫のノラ。決して家には上がらないし、あげない。野良猫は野良猫なのだ。でも、ノラなのだ。彼のベッドは、庭のプランターである。

登場人物については、その姿やとくちょう、性格などが必ず書かれています。文章の初めには、登場人物や場面設定が書かれていることがほとんどです。1段落では、ノラがどんな猫なのかが書かれていますね。

上の文章を読んで問いに答えましょう。

「ノラ」の姿や様子を一段落の中から読み取り、次の□に合う言葉を書きましよう。

首輪のない野良猫

茶色と白の模様をもった野良猫

絶対に近づかないが、朝と晩になると必ずやつてきて

えさをねだる。

だだをこねている子どもとはノラのどのような姿を言っていますか。当てはまるものに丸をつけましょう。

- () 「猫パンチ」をかます姿
- () 枝をゆする姿
- () 魚を食べる姿

飼いだかじゃないけど、飼いだね。と考えたのはなぜですか。次の条件に合わせて書きましよう。

【条件】飼いだではないといえる様子と飼いだといえる様子を、ノラの行動から整理して書くこと

(例) ノラは野良猫のように家上がったり、人に近づいたりはないが、時間になると飼いだのようにえさをもらおうとするかひ。

* 飼いだの部分と飼いだではない部分をノラの姿から書いていれはよい。

題名は、その文章で作者が一番言いたいこと・伝えたいことを、短い言葉や文にしたものです。この文章全体では野良猫から飼いだとして認められたノラのこと書かれていますね。

四 題名□に当てはまると思つものに丸を付けましよう。

- () 野良猫ノラ登場
- () ノラの必殺技「猫パンチ」
- () 中村家の楽しみ